

別紙

平成23年度 森プロ事業実績：福岡柏原里山整備プロジェクト

(平成24年3月末現在)

	H21～22年度		H23年度				5力年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	200	115	100	12	12%		408	
作業道(m)	6,728	7,440	3,018	200	7%	作業路含む	15,628	
間伐等	面積(ha)	112	56	80	10	13%	利用+切捨	329
	材積(m ³)	4,020	3,592	2,960	1,030	35%	支障木含む	11,600
備考	団地外実績(利用間伐:12.8ha 搬出材積:625.2m ³ 作業路開設:420m)							

H23年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

4,733円/m³

施業集約化の状況

- ・ 森プロ1年目に境界の明確化を実施しているため、集約化は間伐等実施予定者の森林に特化して行った。

施業プランの活用状況

- ・ 精算時に林産経費の明細が分かるようにしている。

施業プランナーの養成状況

- ・ 3名がこれまでに国・県のプランナー研修に参加。

作業システムの状況

(メインシステム:チェンソー(伐倒) → グラップル(集材) → ハーベスタ(造材) → フォワーダ(運搬) → 20tトラック(運搬)
素材生産性:4.67m³/人・日

集材工程



造材工程



その他

- ・ 財産区及び生産森林組合の役員を対象に公有林と私有林で集約化した事業地において集約化実施計画及び森林経営計画の説明並びに高性能林業機械による木材搬出についての説明会を開催し、今後の森林整備について啓発した。
- ・ 地元の小学生(6年生)を対象に山の働きと森林整備について説明した。



研修会の様子



小学生への説明の様子

森プロの成果

- ・ 間伐後の森林内の仕上がりについては、10年後を目途に優良材生産が出来るよう素性の良い立木を残す定性間伐を中心に実施している。そういった森林整備について現場管理担当者と森林技術者が共通した認識を持つことで、担当者が事前に森林所有者へ間伐方法を説明し、了解を得ている。

今後の課題

- ・ 高性能林業機械を活用した木材搬出が増えてきたことで、組合全体で技術力の欠如や不注意による機械の破損等が大変多い一年であった。組合でもその都度、発生状況を会議の場で検証しているが修繕コストの縮減に努めたい。
- ・ 作業道については、森林所有者本人が車で山へ行けるようになり利便性が向上するが、組合が事業に必要なため開設していると思われる。所有者の利益に繋がることを理解してもらえるように説明を尽くす必要がある。